

令和五年 隠岐後鳥羽院和歌大賞

歌題 秋浦 入賞歌

古事記編纂一三〇〇年記念大賞

東京都 梶間 和歌

夕暮れの月を分け行く舟のあとを恋ふるながらのさを鹿の声

隠岐後鳥羽院和歌大賞

埼玉県 関口 祐未

わたつみの月につはさの数見えて波路さやけき初雁の声

選者賞 冷泉貴実子選

滋賀県 松岡 壽子

秋の浦家路を急ぐ舟人の夕日にそまり波にゆられつ

公益財団法人 冷泉家時雨亭文庫賞

東京都 徳植 弘幸

鳴き渡る雁の列見ゆ隠岐の島海士の小舟に清き月影

水無瀬神宮賞

千葉県 宿谷 政枝

隠岐の海寄せては返す白波の荒磯の松に澄みし月影

出雲大社賞

埼玉県 山中 逸平

もみぢする比叡を越ゆれば鳩の湖浦吹く風の秋の夕暮れ

大阪天満宮賞

長崎県

小旗くみ子

小夜更けてすめる月影初雁の浦廻の風に声鳴き渡る

住吉大社賞

群馬県

関

弘子

秋の浦寄せては返すささ波に八千入もみち波に色添ふ

城南宮 鳥羽殿賞

東京都

しばたまさあき

あさぼらけ浦にたなびく秋霧のたえまに見ゆる沖つ島かけ

海士町長賞

兵庫県

岡田

優志

ゆく秋を惜しむ寝覚めのあかつきに浦遠く澄む有明のかけ

隠岐ユネスコ世界ジオパーク賞

東京都

三浦

由希

沖合の小島の上に月の舟浦風涼し秋の夕暮れ

入 選

もしほ焼くけぶりも絶えて来ぬ人を松帆の浦にたゞ秋の風 兵庫県 小竹 哲

ささなみの寄せ来て返す志賀の浦吹く夕風にはや虫のこゑ 兵庫県 林田幸子

秋深く波吹き返す浦風に月影見入る海士の釣り舟 鹿児島県 田中司郎

望月の隈なく照らす秋の浦訪ふは唯鈴虫の声 兵庫県 藤原紘一

雁金の秋の月の夜列をなし明石の浦を渡り行くかな 神奈川県 横山隆行

朝ごとに秋の浦へと鳴き渡る影ふやしつつ白鳥のゆく 宮城県 角田正雄

ともしびの明石の浦に舟とめて秋暮れゆけば入相の鐘 兵庫県 齋藤英昭

入日さす沖の白波見渡せは海人の衣に秋風そ吹く 東京都 内田玉世

ゆく人に文のこししか雁のなく明石の浦の草の上の露 東京都 加藤良子

隠岐の浦小舟に落つる月影にさゝ波しつか秋風そふく 東京都 三浦英華

浦の秋暮れて灯ともす湯の宿に泊まりて遥か海鳴りの音 青森県 木立 徹

秋の浦に日は傾きて山の影うすくれないに輝くを見る 東京都 松阪ようこ

夕映えに街の灯淡き大和田の秋の浦にも波の寄せ来ぬ 京都府 中村万年青

霧深き舟路を閉さす秋の浦雁の使ひを待ちわふる日々 兵庫県 濱崎要子

ひと列の雁の涙や落ちつらむ浪立つ浦の夕くれの空 三重県 田中稔子

藻塩くむ海人の潮垂る袖上に明石の浦の秋の月影 兵庫県 唐澤まちこ

むらぎもの心わびしく立つ浦のゆふべの空にかりがね渡る 熊本県 吉野佳子

雁渡る影もあやなる浦の月澄みて涼やか虫鳴く声も 大阪府 足立慶子

しずかなる海は満月いだきいて秋風そよと島島わたる 宮崎県 熱田民恵

千里越え雁渡り来し耳浦に都のたより聞かせてまほし 滋賀県 山崎 昇

月澄みて松風さわく長き夜は須磨の浦人衣打つかな	東京都	阿久津ひろみ
波寄する浜辺に立ちて見上ぐれば大空高く雁鳴き渡る	千葉県	宿谷睦夫
こよろきの磯打つ波に影落とす照る月わけて雁そしはなく	東京都	中嶋康夫
行平が愛でし明石の浦風も秋はひとしほ哀れなるらむ	東京都	岡崎志昂
篁の都望みし山に立てばさざなみ寄する秋の浦みゆ	東京都	嶋田恵一
母と見し里の浜辺の浮かびきぬ秋の浦風ほほを撫づれば	岐阜県	西尾嘉浩
遠浅の舫ひの舟に波静か午後の陽差しの澄める秋浦	広島県	平越玄頌
日暮れには磯に寄る波穏しくて秋の浦里人かげもなき	島根県	花田敦子
秋の浦孤高に耐へし「くぐり岩」入陽背に受け波打ち返す	山口県	為近艶子
十六夜の旅の枕の浦風や人まつ虫の声そ悲しき	東京都	佐藤美佳
望月の黄金は波に揺らめきて数多の絵かき愛でし志摩の夜	三重県	伊藤理恵
秋の浦明石大門に入らむ日や舟いづこへか島山の影	大阪府	岡崎文子
涼風や暮れゆく浦にわかこころ雁にたのみて君にととけむ	新潟県	渡辺宗季
わたつみの八十島照らす月影に秋澄み渡る浦風そ吹く	京都府	吉尾 薫
風さやき浦よりながむ遠の山飛びゆく雁や夕日に染まり	京都府	松原勝子
秋の浦海鳥鳴けど人気なく寄せては返す波に月影	福岡県	伊藤 敏
秋の浦ふりさけ見れば白波の寄せては返すわたつみの聲	大分県	原比呂子
岩くたく白波の音たかくして夕べ淋しき秋の浦なり	三重県	山本ひろこ
空の青海の青とのその間合い白帆行き交う秋の浦辺に	和歌山県	松田容典
後鳥羽院の想ひ重ねて秋の浦時を隔てて胸に迫り来	大阪府	河邊幸子
島影を列なす雁のすきゆけは浜に残らむ妹の玉つき	東京都	古賀のり子

打ち寄する波に向かひてひた走る子亀らの背に秋の潮風 京都府 濱岡 学

見わたせば送り火遠くつらなりぬ暮れ落つる秋の白方の浜に 神奈川県 金生谷喜子

離れ島の黒木の宮に起き臥してみやこの音を雁に聴きしか 新潟県 若月昭宏

夕暮れて雁音わたる沖つ海波にたゆとう澄める月影 京都府 小林なお子

ゆふぐれはそれしも哀し秋の色浜に寄る波訪う人もなし 兵庫県 吉本朱見

滋賀の浦のみきわに落つる初雁の涙に宿る月そさやけき 大阪府 藤井弥生

秋風に黄葉舞ひ散る湖辺にて雁か渡らは思ひそ届けたき 千葉県 大崎みどり

秋は来ぬ浦止まりする小舟あり波間にすめる十六夜の月 島根県 大谷香代子

秋風にきらめく浦の小波はよせては返す我心かな 京都府 才門弘子

鳥ならば幾多の荒き波越えて神在月の隠岐に行かまし 兵庫県 前田達生

月かけにあら磯波をとひこえていつち行くらん渡る雁かね 岡山県 横山博教

波しげく宿からほどもなき秋の浦さびしきは長月の暮 東京都 伊賀守秋風

秋の浦競える虫のこゑのあや絶え間にひひく松を吹く風 東京都 小林和歌子

凪ぎわたる浦わの狭霧立ちこめて影さえやらぬ秋の夜の月 宮崎県 御茶ノ水啓太郎

寄せ返す音も涼しきささなみにさやけく宿る秋の夜の月 東京都 佐合井昇

因幡路は空澄みわたり水清く雁鳴き渡る秋の浦富 千葉県 山本和男

隠岐の浦恋しき人の面影を映して更くる望月の空 大阪府 若松早穂子

秋の浦さ、波照らし澄む月の影にひと列渡る雁か音 長崎県 芦塚寿重

紅葉敷く秋の浦辺を見渡せば海神の宮の錦かと思ふ 岩手県 森内詩紋